

イベント情報です。立憲カフェ@ひの 月1で開催予定

ミニ立憲カフェ@ひの vol.1 森沢美和子と憲法を学ぼう!

1月25日スタートします!

毎月第4土曜日 10時から

講師:窪田之喜弁護士

オーガニックカフェ&レストラン レテラにて

参加ご希望の方は
森沢美和子まで
下記メールを

私たちは生きる
権利を保證されて
いるのです。

あなたの生きづらさを
憲法をもとに一緒に
考えませんか。



会場 レテラご案内
東京都日野市豊田 4-24-11
ラポスタビル 2F



ミニ立憲カフェ@ひの vol.2 森沢美和子とジェンダー平等を学ぼう!

2月よりスタート! 5月,8月,11月,開催予定。

緊急告知

2月1日 18時30分~ 立川リスル大ホールにて
上野千鶴子講演会/2部 野党共闘で変える社会
共に生きる社会へ 変えるのは私たち /21区イベント

森沢美和子プロフィール(日野市議会議員)

2018年2月、日野市初の立憲民主党議員として4,493人の方に投票していただき活動しています。/1967年日野市生まれ/日野五小、日野二中卒業/2005年日本社会事業大学大学院、福祉マネジメント研究科(専門職大学院)修了/資格:社会福祉士、精神保健福祉士/父は1974年より7期28年日野市議を務めた一ノ瀬隆

e-mail: info@morisawa-miwako.com

H P: https://www.morisawa-miwako.com

市民相談などあればお気軽にお声かけください

森沢美和子 事務所

日野市多摩平 5-12-7 042-587-6142

まっとうな政治を日野市から

立憲民主党
The Constitutional
Democratic Party of Japan

もりさわ通信

【5号】

日野市議会第四回定例会報告

日野市議会議員 森沢美和子

議会報告 (11月29日~12月17日の会期)

★男女共同参画の視点で、各種制度等の整備を求める意見書の 提出を要望する請願、本会議で採択されました!!

女性参画の弊害となっている各種制度の見直しを求め法律や制度の枠組みは社会生活上の根幹であり、そこが変わらなくては、真のジェンダー平等は成立しません。1985年、国連女性差別撤廃条約に日本が批准したことは、性差別を禁止する大きなきっかけになり、具体的な立法が成立し、事実上のジェンダー平等を目指し、固定化された性役割は見直さなければならないと明確にうたいあらゆる分野の女性差別を禁止したのです。

日野市男女共同参画都市宣言には、地域で支え合い安心して暮らせるまち、家事、育児、介護、仕事を分かち合う共同参画のまち、生き方を理解し合う自立と共生のまち、人権を認め合うやさしい平和なまちを目指しています。

日野市がSDGs未来都市として、20年後のジェンダー平等社会を実現し、男女の能力に応じた平等を達成させるため、バックキャスト思考で今何をすべきか?基礎自治体から声をあげていくことで市民に根付いている潜在意識を解消し、私たちの娘や孫が差別のない生きやすい社会で活躍することは、誰も望むことです。

しかし請願は採択されても、意見書は全会一致でないため成案とならずでした。このやり方には疑問が残ります。



第11回むらさきロードパレード

第三回定例会



★人権尊重と多様性を認め合うまちへ
～日野市の障害者差別解消に向けて
の取り組みについて～

障害者差別解消推進条例が全会一致で可決されました！

事業者にも合理的配慮の提供が義務付けられ、不当な差別扱いを受けた場合に市は相談に応じる。それでも解決しない場合はあっせんを行うとしている。

審議前の一般質問では、障害者差別解消の範囲を確認しました。

Q あっせんにはハラスメント被害やヘイト的言動の対応はあるのか？ 配慮のないサービス提供で生まれた因果関係は、あっせんの申し立てをすることで解消できるのか。別の機関で利害調整をするなどの市の具体的対策はお持ちか。

A. あっせんにはハラスメントやヘイトの対応は含まれていない。しかし、人権問題が発生した場合は、しかるべき相談機関へつなげる。

日野市は、障害のあるなしにかかわらず、ともに育ち、ともに学び、ともに働き、ともに尊重して支え合う社会『共に生きるまち日野』を目指しています。

Q. 『障害者差別』と対象を限定したことにより障害の部分だけに目が向けられてしまい、他の大切な個性を軽視してしまい、多様性を受け入れられないこともあるかもしれない。国立市のような福祉分野に限らず人権全般の被害救済の条例作成の考えはお持ちなのか。

A. 人権全般の被害救済につながる相談事業を行っており、現在のところ条例作成についての検討はしていない。

9月の一般質問は一部、手話をつかって行いました。

最終日(10/27)の障害者差別解消推進条例議案の意見は、日野市議会初手話通訳者が入りました。

一般質問報告

第四回定例会



★次世代ニーズを包摂できる
未来都市へ～ダイバーシティから
インクルージョンへ～

日野市は今年の7月に、SDGs未来都市に選定されました。『障害者差別解消推進条例』が可決され(左報告)、来年度4月より施行。台風19号到来の際に、日野市は市民の命を守るためにいち早く避難勧告、避難指示を発令し、市内の避難所は8600人ももの避難者で溢れました。避難した障害者への合理的配慮の提供についてを中心に確認しました。

市の答弁は、思いやりスペースの提供、福祉避難所へは市職員が市内避難行動要支援者1800名へ電話トリアージを実施、在宅避難者へは訪問して垂直避難の実施など、可能な限りの合理的配慮の提供を行ったと評価できます。日常の障害者支援策こそ非常時の支援に繋がる。『誰一人置き去りにしない』SDGs未来都市らしいインクルーシブ防災の必要性が市長の答弁からもうかがえました。

SDGsはバックキャスト思考で、未来を起点としてそこから逆算した今に何をすべきか。将来世代のニーズを損なうことなく今のニーズを満たしていくことです。

ダイバーシティ=多様性という言葉は今、理解が深められてきましたが、ダイバーシティは多様な文化や背景、個人的特質を持たれた方と組織内で共存し、組織のパフォーマンスを高めてきました。人々の差異や違いを意識するために使っている言葉と言えます。バックキャスト思考には、ダイバーシティから発展した市民意識が生まれ、インクルージョンへ発展することが、「誰一人置き去りにしない」社会になることだと私は思います。インクルージョンは社会的包摂であり、異なる社会文化、個人的特質などさまざまな要素から起きる排除や区別を取り払い、誰もが対等な関係で関わり合い、社会や組織に参加する機会を提供すること。未来都市日野市に期待します。